



## 平成25年度共同機構研修計画(25年4月~25年11月)

## 1 平成25年度の研修会のねらい

乳幼児一人ひとりの豊かな育ちを保障する保育者のかかわりや子どもを理解する力について改めて見直すことで、保育の質の向上と、今日的な課題を見据えた研修とする。

上記のねらいを達成するために、以下の4項目について研修を計画する

- ①保育の質の向上について
- ②気になる子どもと保育について
- ③保幼小連携について
- ④子育て支援について

2 平成25年度の講師候補  
研修

日 時	講 座 名 ・ 内 容 等	講 師 名
4月19日(金) 15:00~17:00	<b>子どもの心を育てる保育</b> 「エピソード記述を読む」ことから、子どもの心を育てる保育につなげていく視点を学びます。	<b>鯨岡 峻</b> 中京大学教授
5月23日(木) 15:00~17:00	<b>学びや育ちをつなげる連携を目指して</b> 講師の保育実践から、協同的な生活や遊びが子どもたちの心をどのように育て、小学校への接続にどのように関係するのかを学びます。	<b>佐々木 晃</b> 鳴門教育大学 附属幼稚園教頭
7月10日(水) 15:00~17:00	<b>今、大切にしたい保育の質~子どもを受け止める保育とは~</b> 子どもへの関わりの基本である「受け止める」保育とはどのようなことなのか、また「受け止める」ことで子どもの心がどのように育っていくのかについて学びます。	<b>大倉 得史</b> 京都大学大学院准教授
8月26日(月) 15:00~17:00	<b>生き物と関わることで子どもの心に育つものとは</b> 子どもが生き物を見たり、生き物と関わったり、豊かな自然体験をすることで育つものについて、また、保育の中で子どもたちが生き物とかわる環境をどのように考えるのかについて学びます。	<b>梶原 裕二</b> 京都教育大学教授
9月12日(木) 15:00~17:00	<b>気になる子どもに寄り添うとは</b> 気になる子どもの行動の背景に目を向けることの大切さや「育てにくさ」に悩む保護者との関わりについて学びます。	<b>田中 一史</b> 京都市児童福祉センター 児童精神科医
10月18日(金) 15:00~17:00	<b>子どもにとっての遊びとは</b> 子どもの生活と遊びを豊かにしていくため、遊びは乳幼児にとってどういう意味があるのか、主体的に遊ぶことをどのようにとらえるのかについて学びます。	<b>河崎 道夫</b> 三重大学教授
11月18日(月) 15:00~17:00	<b>子どもの思いにこころをよせて</b> 0歳~5歳までの発達をとらえる上での大切な視点について、また、子どもの思いにこころをよせる保育とはどのようなものなのかについて学びます。	<b>西川 由紀子</b> 京都華頂大学教授

## 夜間講座

5月13日(月) 18:30~20:30 総合教育センター 永松記念ホール	<b>保育園(所)・幼稚園に求められる地域の子育て家庭への支援</b> 地域の子育て家庭への支援において、保育者に求められる役割とはどのようなことなのか、また、情報収集や取組方法等についても学びます。	<b>橋本 真紀</b> 関西学院大学准教授
--	---	---------------------------

## 特別研修(児童家庭課・保健医療課と合同)

6月14日(金) 15:00~17:00	<b>保育園(所)・幼稚園における子育て支援と関係機関との連携</b> 保育園(所)・幼稚園だからこそできる支援の方法とはどのようなものがあるのかについて関係機関との連携も含め具体的に学びます。	<b>金子 恵美</b> 日本社会事業大学准教授
-------------------------	--	-----------------------------

その他に「合同研修(教育委員会保・幼・小・中連携推進事業と合同)」を予定

## 平成24年度 共同機構研修会 第5回

京都市保育士会共催

# 子どもの育ちへの理解

講師 大倉 得史 京都大学大学院准教授

1974年東京出身。京都大学総合人間学部卒業、同大学院人間・環境学研究科修了。京都大学博士（人間・環境学）。臨床心理士。九州国際大学講師・准教授等を経て、現在京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。専門は発達心理学。主な著書に『拡散 diffusion』（ミネルヴァ書房、2002年）、『語り合う質の心理学』（ナカニシヤ出版、2008年）、『大学における発達障害者支援を考える』（中川書店、2009年）『「語り合い」のアイデンティティ心理学』（京都大学学術出版会、2011年）、『育てるものへの発達心理学』（ナカニシヤ出版、2011年）など。

障害の（疑いのある）子どもに関わる際の基本中の基本とも言える、3つの注意事項を確認しておきたいと思います。

①「能力の欠如」や「問題行動」という見方をしない…子ども自身の困り感や不安感の表れとして子どもの状態を把握していくことが必要です。まず必要なのは、そうした気持ちの面へのサポートです。②集団活動にこだわらない…保育者がその子の気持ちを大事にして、その子のペースで集団に入りたいときに入り、しんどくなったら抜けられるような、そんな体制を作っておくことが大切です。③診断に囚われない…その子が今どんな困り感や不安感を抱えているのか、それを少しでも和らげるためにどんな配慮ができるかということです。診断名からの子ども理解ではなく、生活の中での見立てを大事にしてください。

保育の現場では、よく「子どもに力をつける」という言い方がもてはやされることがあります。「させる」「教え込む」というふうに働きかけるのは「心」よりも先に「力」を身に付けさせようとしているという点で、根本的に筋道を誤っています。

保育者のかかわりには、子どもに「寄り添う」働きと、保育者の思いを「伝え返す」働きの両面が入っていなければなりません。その両面がバランスよく展開されるところに、子どもの自信・自己肯定感や他者への信頼感・思いやりなど（主体としての心）が育ってきます。障害の有無に関わらず、子どもの中に主体としての心を育てることが、保育の第一目標に据えられなければなりません。

また、障害の子どもの場合には特に、保護者との連携が重要になります。まずは保護者の深く重い悩みに寄り添い、大変さを分かち合っていくことから始めるというのが、関わり方の基本になります。

<参加者のアンケートより>

「エピソードを基に、とても丁寧なお話を聞くことができ、ためになりました」「子どもの気持ちにしっかりと寄り添い、働きかけることの大切さを改めて感じました」という感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ  
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ

## 平成24年度 共同機構研修会 第6回

京都市私立幼稚園協会共催

# 「協同性」を育むとは：保幼小連携のために

講師 青柳 宏 宇都宮大学教授

宇都宮大学教育学部教授。日本教育学会、日本カリキュラム学会、日本思春期学会に所属。栃木県内小・中学校のスクールカウンセラー。専門分野は教育学。著書に「新しい時代の幼児教育」（共著）「幼児期から児童期への教育」（共著）「幼児教育の世界」（共著）等。

なぜ、今、「協同性」なのか？と考えたときに、今の日本の子どもたち、中学生のことが思い浮かぶのですが、葛藤できない子どもが目立ってきています。

一人ひとりが自分はこう思うという思いをもって、対立し葛藤することができる、互いに葛藤・対立しながら響き合わせて新しい世界を作っていくことを「協同性」という言葉で表したいと思います。協同の教育を保・幼・小・中・高・大まで引き継いでいくことが大事だと思います。

保育園・幼稚園の先生方は思春期を見据えた保育をされることが大事だと思います。保・幼・小というよりも保・幼・小・中・高・大という連なりの中でずっと持続していくような自発性、協同性を育てていくことが大事だと思います。そのためには、3歳児は「共に感じ合う」こと、4歳児は「葛藤に寄り添う」こと、5歳児は「テーマの中で遊びが響き合う」ことが重要です。

子どもの生き様そのものをどう支えていくのが連携の大きなテーマになっていきます。

<参加者のアンケートより>

「協同性を育むために年齢ごとに大切にしていくことも具体的に示していただき、わかりやすかったです」「保幼小連携＝何か形にと感じますが、日々の遊び（生活）で大事にしている部分を小学校につなげる努力をしなければならぬですね」等の感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。貸出要項へ  
講義の詳細は、要録ページをご覧ください。要録ページへ

子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる  
取組を進めます。  
（「子どもを共に育む京都市民憲章」より）



発行日 平成25年3月15日  
発行所 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館  
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1  
Tel (075) 254-5001 Fax (075) 212-9909  
URL <http://www.kodomomirai.or.jp>